

## 子どもたちが病院の仕事を体験

07月29日 13時31分



医療について関心をもってもらおうと、夏休みの子どもたちが病院でのさまざまな仕事を体験できる催しが、27日、橋本市で開かれました。

この催しは、橋本市にある病院が毎年開いていて、子どもと保護者など合わせておよそ600人が参加しました。

催しでは、青い手術着に身を包んだ子どもたちが、医師の指導を受けながら、実際に手術で使われる電気メスで鶏肉を切ったり、傷口に見立てたスponジの切れ目を針と糸で縫い合わせたりしました。

また、▽お菓子をを使って調剤の仕事を体験できるコーナーや、▽超音波検査で、心臓や肝臓などの内臓がどこにあり、どんな動きをしているのか観察できるコーナーも設けられ、子どもたちは楽しみながら医療について学んでいました。

小学5年生の男子児童は「おじいさんが心臓の緊急手術を受け、お医者さんが助けてくれました。ぼくも人の命を救いたいのでお医者さんになりたいと思い参加しました」と話していました。

催しを開いた紀和病院の梅村定司医師は「医療について詳しく知ってもらい、命の大切さや病気にならないことの大事さを改めて知ってほしい」と話していました。

(NHK和歌山放送局ホームページより転載)